



〔 編集後記 〕

新緑が芽吹き新しい命を感じる時期となりました。新しい勤務先で新生活が始まっている先生方も多いことと思われます。千葉大学医学部においても新入生が入り、新たな伝統を作る担い手となると期待されます。

本号においては、総会案内、総説1編、千葉医学会奨励賞の研究の紹介1編、学会記録2編、Chiba Medical Society Award Review 1編、Chiba Medical Society Young Investigator Award Minireview 1編と盛りだくさんの内容となっています。

総会案内は「第100回千葉医学会総会記念大会開催のご案内」です。長い伝統を誇る千葉医学会も今年で第100回を迎えます。これを記念して5月28日にホテルニューオータニ幕張で、総会・評議員会、千葉医学会賞授賞式・記念講演、第100回大会記念シンポジウム、懇親会が開催されます。新型コロナウイルス感染症も収束の気配を見せています。多くの先生方にご参加いただければと思っています。

総説は、医学教育研究室名誉教授の田邊政裕先生による「医学教育改革25年の歩み」です。1990年代初頭から始まり、臨床カリキュラム委員会、卒後・生涯医学臨床研修部、総合医療教育研修センター、医学教育研究室、クリニカル・スキルズ・センターの設置、アウトカム基盤型教育、専門職連携教育、国際交流と多くの教育改革が行われ、その先進性は他大学から大きく注目されたところでありました。

千葉医学会奨励賞の研究の紹介は、千葉大学医学部6年生の古木直人さんによる「プロテオミクスによるMDM2が制御するフェロトシス分子基盤の探索」です。また、後出のChiba Medical

Society Young Investigator Award Minireviewは、千葉大学医学部5年生菊地創太さんの「Catalytic and non-catalytic functions of histone methyltransferase SETD1A in disease」です。両名とも医学生としてこのような立派な研究が出来ることは非常に素晴らしく、千葉大学医学部の学生の能力が非常に高いことを示しているのだと思います。また、これを指導された分子病態解析学と分子腫瘍学の先生方のご尽力に敬意を表したいと思います。

学会記録は第1466回千葉医学会例会として臓器制御外科学教室懇話会、第1471回として第40回脳神経内科学教室例会の抄録が掲載されています。第1466回、第1471回という数字に千葉医学会の長い歴史を感じるとともに、それぞれの教室で多くの立派な発表がなされているのを見て、千葉大学の底力を感じました。

Chiba Medical Society Award Reviewは、千葉大学大学院イノベーション医学の倉島洋介先生による「Intestinal mucosal defense and disease: a prospective review of the pancreatic-gut axis」です。近年、個々の臓器ではなく、複数の臓器の連携した働き「臓器連関」が注目されています。倉島先生は炎症性腸疾患における悪玉腸内細菌の組織内への侵入を抑えるための臓器連関を研究され、Impact Factorの高い雑誌に報告されています。この最先端の研究をReviewしていただいています。

第100回の総会を迎える伝統ある千葉医学会のオフィシャルジャーナルである千葉医学・Chiba Medical Journalに先生方の貴重な研究を投稿していただければ幸いです。

(編集委員 小林欣夫)